

富山県におけるツキノワグマによる2012～2013年秋 のカキノキ利用状況

| | |
|-----|---|
| 著者 | 後藤 優介, 南部 久男 |
| 雑誌名 | 富山市科学博物館研究報告 |
| 号 | 39 |
| ページ | 95-96 |
| 発行年 | 2015-06-20 |
| URL | http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=1021 |

短 報

富山県におけるツキノワグマによる
2012~2013年秋のカキノキ利用状況*

後藤 優介

ミュージアムパーク茨城県自然博物館
306-0622 茨城県坂東市大崎700

南部 久男

富山市科学博物館
939-8084 富山市西中野町一丁目8-31

Use of the Persimmon trees by Japanese
black bear in Toyama Prefecture,
during autumn in 2012 to 2013

Yusuke Goto¹⁾ and Hisao Nambu²⁾

¹⁾Ibaraki Nature Museum, 700 Osaki, Bando-City,
Ibaraki 306-0622, Japan

²⁾Toyama Science Museum, 1-8-31 Nishinakano-machi,
Toyama-shi, Toyama 939-8084, Japan

はじめに

富山県では2004, 2006, 2010年秋にツキノワグマが大量出没したことが知られている(自然環境研究センター, 2005; 日本クマネットワーク, 2014; 富山クマ緊急調査グループ他, 2005; 富山県, 2005, 2007, 2012). また2006, 2010年秋の大量出没年には, 山麓部を中心に多くのカキノキにクマの爪痕が確認され, カキノキを高い割合で利用していることが確認された(南部・白石, 2010; 後藤・南部, 2012). クマの大量出没年, あるいは平常年にカキノキに残る痕跡を記録し継続的にモニタリングしておくことは, 山麓部や河川流域の人里周辺でのクマの出没状況を知る上での基礎資料になる. 今回, 2012~2013年秋のカキノキへのクマの痕跡(爪痕)を調査した結果を, 2010, 2011年の比較と併せて報告する.

調査地および方法

調査は, 後藤・南部(2012)の調査地点である県内の10河川流域の山麓部や集落周辺など20地域で行った(図1, 表1). 原則として2010年秋の利用状況を確認した調査木と同一のカキノキについて調査を行ったが, 一部伐

採等で消失していたカキノキもあった. なお, 熊野川右岸側の平地, 角川の平野部, および舟川の平野部は大量出没年にもみ利用する可能性が高い地域であるため今回の調査からは除いた.

調査日は2012年秋のツキノワグマによる爪痕形成が終わると考えられる2012年11月下旬から2013年秋の爪痕形成が始まる前(2013年8月)までと, 2013年11月下旬から2014年8月の間に設定し, カキノキの幹上に残るそれぞれの年の秋にツキノワグマによりつけられた新しい爪痕の有無を確認した.

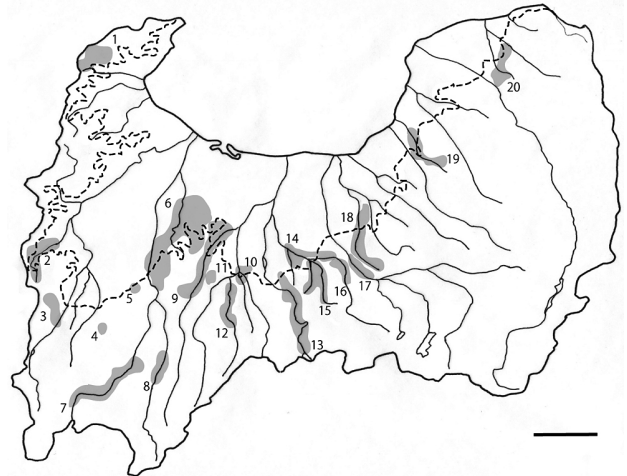


図1. 富山県内の各調査地域(網掛け部分) 番号は表1に対応する. 図の点線は標高100mライン. バーは10km.

結果及び考察

各調査地における今回の調査年の2012~2013年秋と2010~2011年秋のツキノワグマの爪痕本数ならびに流域の爪痕の割合を表1に記す.

2010年秋は, 県西北部の氷見地方(余川川)では当該年のクマの爪痕はなく, 県西部の渋江川では, 9.5%, 庄川水系や舟川では15~20%で, それ以外の流域では, 30%を越し, 特に小矢部川, 常願寺川, 栃津川, 角川の各流域では50%を超える高い割合であった. 一方で, 2011年はいずれの流域でも全く爪痕はみられなかった.

2012年秋は余川川, 小矢部川, 常願寺川, 舟川では爪痕は見られず, 神通川水系では12%と他の河川より高く, その他の流域では, 約1~5%と僅かに爪痕のあるカキノキが見られた. 2013年秋も神通川水系を除くと2012年とほぼ同様な傾向を示し, 余川川, 常願寺川, 舟川ではツメ痕は見られず, その他の流域では, 約1~6%と爪痕がみられるカキノキの割合は僅かであった.

以上のことから, 2010年秋は県下一円で, カキノキが

* 富山市科学博物館研究業績第483号

ツキノワグマに利用され、2011年秋は全く利用されず、2012、2013年秋には僅かに利用されていたことが分かる。富山県（2015）によれば、2010～2013年の秋（9～12月）の各年のツキノワグマの出没件数（目撃と痕跡）の合計は、それぞれ1208、44、122、50件で、2010年のみが大量出没年であった。カキノキのツキノワグマの爪痕割合と出没件数の動向はほぼ一致していることが分かる。

表 1. 2010～2013年秋のクマによるカキノキ利用状況

| 調査地 | 調査本数 | 爪痕の有無および利用時期 | | | | |
|----------|------|--------------|---------|---------|-------|-------|
| | | 2009秋※以前 | 2010秋※2 | 2011秋※2 | 2012秋 | 2013秋 |
| 1 余川川 | 14 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 2 渋江川 | 21 | 38.1% | 9.5% | 0 | 4.8% | 0 |
| 小矢部川流域 | | | 54.2% | 0% | 0% | 5.6% |
| 3 福光地区 | 41 | 35 | 12 | 0 | 0 | 4 |
| 4 城端地区 | 31 | 29 | 27 | 0 | 0 | 0 |
| 庄川流域 | | | 19.9% | 0% | 0.7% | |
| 5 井波地区 | 14 | 13 | 7 | 0 | 1 | 3 |
| 7 五箇山地区 | 39 | 7 | 14 | 0 | 0 | 5 |
| 8 利賀川 | 16 | 3 | 3 | 0 | 0 | 0 |
| 6 庄川 | 202 | 32 | 30 | 0 | 1 | 2 |
| 神通川流域 | | 29.2% | 34.5% | 0% | 12% | 5% |
| 9 山田川 | 80 | 15 | 18 | 0 | 3 | 0 |
| 10 井田川 | 26 | 3 | 16 | 0 | 0 | 0 |
| 11 室牧川 | 6 | 3 | 5 | 0 | 1 | 1 |
| 12 野積川 | 37 | 15 | 14 | 0 | 2 | 2 |
| 13 上流域 | 77 | 30 | 25 | 0 | 3(75) | 1(72) |
| 熊野川流域 | | 43.1% | 41.5% | 0% | 2.4% | 2.4% |
| 14 熊野川 | 180 | 71 | 63 | 0 | 2 | 1 |
| 16 黒川 | 32 | 16 | 20 | 0 | 3 | 2 |
| 15 上流域 | 36 | 20 | 20 | 0 | 1 | 3 |
| 17 常願寺川 | 26 | 69.2% | 53.8% | 0% | 0% | 0% |
| | | 18 | 14 | 0 | 0 | 0 |
| 18 栃津川 | 30 | 50% | 80% | 0% | 3.3% | 3.3% |
| | | 15 | 24 | 0 | 1 | 1 |
| 19 角川 | 57 | 47.4% | 71.9% | 0% | 5.3% | 1.8% |
| | | 27 | 41 | 0 | 3 | 1 |
| 角川追加調査地 | 28 | 0 | 3 | - | - | - |
| 20 舟川山麓部 | 53 | 60.4% | 15.1% | 0% | 0% | 0% |
| | | 32 | 8 | 0 | 0 | 0 |
| 舟川平野部 | 66 | 1 | 0 | 0 | - | - |
| 計 | 1112 | 393 | 366 | 0 | 22 | 26 |

※2009年秋以前のいずれかの年に利用された爪痕があったもの

()は調査本数

堅果類の豊凶とクマの行動を複数年追跡した具体的な事例では（有本ら、2011）、富山県東部の角川周辺において、ブナの豊作年であった2005年はクマが標高800 m以上のブナ帯に移動しブナ堅果を利用し、不作年の2006年、2007年には400 m以下の山麓部で堅果類やカキノキを利用していただことを報告している。また、中島（2013）はブナの凶作は大量出没の十分条件ではないとしながらも、ブナ堅果の豊作年はクマの大量出没の可能性は低いことを指摘している。よって、2010年の大量出没時に爪痕の割合が高くなったことは、山の餌資源不足によりクマが山麓のカキノキを利用したためだと考えられる。

また2011年以降、秋にカキノキを利用するクマの割合は低い割合で推移したことは、ブナの豊作及びその他の堅果類の餌資源の豊凶が関係していると考えられた。クマのカキノキ利用と堅果類の豊凶や出没状況との関係を明らかにするためには、今後も継続的な調査が必要である。

文献

Arimoto I., Goto Y., Nagai C. and Furubayashi K., 2011. Autumn Food Habits and Home-Range Elevations of Japanese Black Bears in Relation to Hard Mast Production in the Beech Family in Toyama Prefecture. *Mammal Study*. 36: 199-208.

後藤優介・南部久男, 2012. 富山県におけるツキノワグマによる2010年秋のカキノキ利用状況について. 富山の生物, 51: 93-100.

中島春樹, 2013. ブナの雌花序痕を用いた作柄推定-富山県におけるブナの豊凶とツキノワグマの出没の関係-. 日林誌, Vol.95 (1): 71-75.

南部久男・白石俊明, 2012. 富山県におけるツキノワグマによる2006年秋のカキノキの痕跡. 富山市科学博物館研究報告, 36: 9-12.

南部久男, 2011. 富山市におけるツキノワグマの出没 記録(2010年). 富山市科学博物館研究報告, 34: 177-192.

日本クマネットワーク, 2014. 「ツキノワグマおよびヒグマの分布域縮小の現状把握と軋轢防止および危機個体群回復のための支援事業」報告書.

自然環境研究センター, 2005. ツキノワグマの大量出没に関する調査報告書（平成16年度ツキノワグマ個体群動態等調査事業）, 115pp.

富山クマ緊急調査グループ・日本クマネットワーク (JBN), 2005. 富山県における2004年のツキノワグマの出没状況調査報告書. pp.112+CD.

富山県, 2005. 富山県ツキノワグマ保護管理暫定指針 (ガイドライン). pp.27+35.

富山県, 2007. 富山県ツキノワグマ保護管理暫定指針 (ガイドライン). pp.35.

富山県, 2012. 富山県ツキノワグマ保護管理計画. 富山県自然保護課. pp.93.

富山県, 2015. ツキノワグマ目撃・痕跡情報. http://www.pref.toyama.jp/cms_pfile/00003647/00721044.pdf. 2015年4月3日閲覧.